

## APRICOT2016 カンファレンス参加支援プログラムに関する

### 参加報告書-江川智啓

提出日:2016年3月22日

作成者:Colt テクノロジーサービス株式会社 江川 智啓

#### 1. はじめに

私はレイヤー2サービス・バックボーン的设计・構築に関わる業務を行っている。私自身はネットワークを専攻したわけでもなく、まさに今年度よりネットワークの世界と関わるようになった駆け出しのエンジニアである。技術や知識についてまだまだ勉強不足の面があり、貪欲に様々なことを吸収したいと考えている。

今回、本支援プログラムを知り他国や他社のネットワークの構築に関する考え方や文化を吸収し、今後のエンジニア人生の指針を得るには貴重な機会であると考えた。しかし、業界・技術をほとんど理解していない私のような人材が参加することに不安があった。だが、インターネットを中心としたレイヤー3では業界に還元しようという考え方の方が多いと感じている。だからこそ、私のような駆け出しでもこのような貴重な機会に諸先輩方の協力、助けを借りることで何か吸収できることがあるのではないかと思い、本支援プログラムの応募に至った。

本報告書では、出席したセッションと興味を持ったセッションについて触れ、APRICOTを通じ得られたことについて言及する。

#### 出席したセッション一覧

2/22 (Day1)

Newcomers Orientation Breakfast

IPv6 & Address Planning

Opening Ceremony and Apricot Plenary

APOPS Plenary 1

APRICOT Opening Social

2/23 (Day2)

APOPS Plenary 2

BGP Techniques for Network Operators (Part1)

BGP Techniques for Network Operators (Part2)

RIPE Atlas Monitoring Tutorial

2/24 (Day3)

Lighting Talks (1)

Software Defined Networking

Network Operations

Network Measurements

NOG BoF

2/25 (Day4)

Troubleshooting BGP

APNIC Policy SIG(2) Improving APNIC Whois Data Quality

Network State Awareness and Troubleshooting

APRICOT Plenary 2 and Closing Ceremony

APRICOT Closing Social

2/26 (Day5)

APNIC AGM (1)

APNIC AGM (2)

APNIC AGM (3)

APNIC Closing Diner

## 特に印象に残ったセッション

IPv6 & Address Planning (Day1)

IPv6 & Address Planning のセッションは特に印象に残っている。v6 という膨大なアドレス空間をどのように利用すれば v4 以上にわかりやすく使用することができるのかということ Smith 氏が簡単に説明した。v6 というなじみのなかったアドレスのほうが v4 よりもアドレス使用のルール策定が簡単なように思えた。

APOPS Plenary 2 –Recent Network Trends in Asia and Oceania- (Day2)

都市間をつなぐ業務を行っている企業で働く身としては Williams 氏の –Recent Network Trends in Asia and Oceania- で述べられていたアジア、オセアニアの現状や今後の海底ケーブルのトラフィックや価格がどのように変動していく可能性があるのかという点については大変興味があった。まだまだトラフィックが伸び、価格が下がることが予想されている中、業界全体としてどのように対応すべきなのか悩ましいところである。強いというなれば WDM などの技術進歩には乗り遅れずについていくことが大事なのかもしれない

### Software Defined Networking (Day3)

弊社のレイヤー2 サービスは SDN を用い運用を行っている。しかし、私自身は SDN を使っているが中身についてはほとんどわかっていなかった。そのため、SDN がどのようなマインドで作られたのか、今後どのような機能が追加されるのかということの興味を持っていた。本セッションを通し、今までブラックボックスのようにわからなかった SDN について多少は理解することができたように感じた。業界全体でもまだまだ使われていないことが多そうなのでユーザーとしての還元できることは還元していきたいと思う。

### APNIC AGM (Day5)

前村氏を含む3名が今回 APNIC EC を退任された。私にとって初めての APNIC Meeting であったが総立ちで拍手を受ける前村氏の姿には感動を覚えた。今でこそ立派な団体である APNIC も立ち上げ当時は大変な思いをしながら運用をしたそうであった。前村氏をはじめとする今までの EC の皆様の努力があり、APNIC さらには今日のインターネットができているだと改めて感じた。

### 全体を通して

第一の感想は“難しい”である。ただ、難しかったからと言って何も得られなかったわけではない。数多くの方と話すことでどんな人でもわかることのほうが少ない、わからないことが当たり前であるということを知った。そしてすべての方がわからないことを伝えれば一生懸命教えた。改めて業界全体として協力することで成り立っているということを感じた。

今までは教えてもらおうと思っていたが、様々な方の発表を聞くことで意識の変化が現れた。私自身も日々勉強をし、何か一つでもインターネット業界に貢献できるような活動や報告をしたいと考えるようになった。

### 今回の経験をどう生かしていきたいか

今回様々な貴重な体験をさせていただくことができた。様々な団体の方や、諸外国の ISP 方と知り合うことができ、さらには普段なかなか聞くことができない技術的な悩みや解決方法を知ることができた。一流のエンジニアでも実践してみないとわからないことや、原因がわからない問題を抱えているということを知った。私自身も様々な実践をし、たくさん疑問を持つことをしていきたいと思う。そして、その疑問を自分で解決しようがしまいが会社内のみならず APRICOT のような交流の場で相談、共有していきたいと考えている。

## 参加支援プログラムに対する所感

本参加支援プログラムに参加することができ、非常に良かったと感じている。通常業務や日本にいたままでは受けることのできない刺激を受けることができ、さらには知識のみならずフェローシップ委員会の皆様の協力もあり、多種多様な人脈も得ることができた。日本のみならずアジアのインターネットを作っている、エンジニアや理事会の方など多種多様な方と出会えたことは駆け出しエンジニアの自分にとって今後のエンジニア人生に大きな影響を及ぼす出来事であったと感じている。

ただ一つお願いをすれば **Work Shop** の参加である。実際の機器を使用し、さらには世界的な方から学べる機会はめったにないため、一部費用を自己負担してでも参加をしたかった。そのような選択肢があると私のような駆け出しのエンジニアにとっては素晴らしい経験ができると思っている。

最後にフェローシップ委員会の皆様をはじめ、本プログラムに関わってくださった皆様、APRICOT で出会った方すべてに改めて感謝の意を表したい。